

妊娠女性の主観的な健康度と 子宮頸部細胞診の異常との関連

Sasaki *et al.* Association of subjective health and abnormal cervical cytology in Japanese pregnant women: An adjunct study of the Japan Environment and Children's Study. Prev Med Rep. 2021; 24: 101525. doi: [10.1016/j.pmedr.2021.101525](https://doi.org/10.1016/j.pmedr.2021.101525)



【はじめに】

子宮頸がんによる死亡は早期発見によって大幅に減少します。しかし、子宮頸がん検診の受診率が低いことが問題とされています。初期の子宮頸がんには自覚症状がなく、自分は健康だと思っても積極的に検診を受ける必要があります。

この研究では、自分が健康という認識が高いほど検診から足が遠のき、子宮頸がんが発見されにくいのではないかと仮説を立てました。そこで、妊娠初期に行われている子宮頸部細胞診※の結果を使って、自分が認識している健康状態（主観的健康度）が子宮頸がんの異常と関連するかを検討しました。

※子宮頸部細胞診

細い棒のような器具で子宮頸部や頸管を軽くこすって細胞を採取し、顕微鏡でがんのような異常細胞がないか調べる方法です。



【調査項目】

妊娠中の女性3024人を対象にし、質問票への回答に基づいて主観的健康度を「非常に良い」、「良い」、「まあまあ」、「悪い」の4群に分類しました。また、妊娠初期の子宮頸部細胞診の結果を「正常」と「異常」に分類し、主観的健康度との関連を調べました。

【結果】

主観的健康度（自分が認識している健康状態）

子宮頸部 細胞診	全て 3024人	悪い 341人	まあまあ 986人	良い 1372人	非常に良い 325人	p-value※
正常 (%)	96.5	98.8	96.4	96.1	96.0	0.055
異常 (%)	3.5	1.3	3.7	3.9	4.0	

主観的健康度が良くなるにつれて、細胞診で異常が見られる頻度が高くなりました。また、主観的健康度が悪い群と比べて、他の3群では細胞診で異常が発見されるリスクが高まるという結果も得られました。

※p-value

統計解析で結果の信頼度を示す指標です。この値が小さいほど、結果の信頼度が高いことを示します。

【この調査でわかったこと】

妊娠適齢期の女性において、自分が健康であると思っても子宮頸がんのリスクを抱えている可能性があることが分かりました。今後さらに、子宮頸がんワクチンの接種や定期的な子宮頸がん検診の受診呼びかけなどの予防活動が必要です。

Written by Yukiko Tando